

MIT 交換留学報告書 (2017/8/27~2017/12/22)

工学部システム創成学科 谷浦翔紀

・留学準備期

留学準備期 で最も時間をかけたのは何と言っても英語です。もともとあまり得意ではなかったのですが、渡航前には東大で提供されている機会を存分に利用させてもらいました。ここでは僕が特に役に立ったと思うものを載せておきます。

SEL (スペシャルイングリッシュレッスン)

これは有名な民間の英会話スクールの授業が東大で、しかも格安で受けられるというかなりお得なコースです。これから留学を考えられている方は、ぜひ参加されると良いかと思います。Sセメ、Aセメどちらも開講されていますし、コースも初心者から上級者、TOFEL 対策から大学の授業訓練に至るまで多岐にわたり、各々のニーズにもしっかり合わせてくださいます。

M-skype

これはMITに留学する生徒にはこれ以上ない機会といっても過言ではありません。この授業では日本に興味があるMITの現地学生の人たちとオンラインを通じて会話をしたり、数人の学生を日本に招いてキャンプを行ったりします。ここで知り合った友達はMITについても仲良くしてくれましたし、留学が終わった今も連絡を取り合っています。

MIT open courseware

これはMITの授業をオンラインで視聴できるという願ったり叶ったりなサービスです。渡航前に見ておくと履修授業の参考にもなりますし、ここには実際のテストの過去問や宿題の内容なんかも載っていたりするので、渡航後も役に立ちます。

また、留学準備として大変なものとしてビザの手続き、ワクチン接種が挙げられます。ビザについては夏の時期は非常に込み合いますし、ワクチンでは複数接種する際その間隔が決められていますので書類等を受け取った際はできるだけ早く済ませておくのを勧めします。

そして、MIT関連の手続きとしては寮の希望調査、そしてミールプランがあると思います。

まず、寮について。MITではほとんど全ての学生が寮、またはフラタニティ・ソロリティから通っており、寮の数は全部で11あってほぼ全てがキャンパス内に位置していま

す。各寮ごとにカラーが大きく違い、特に僕の住んでいた East Campus では学生自身によって完全にオーガナイズされており、予算を使って庭にジェットコースターを作ったり、予算を使って同じ会のみなどと旅行に行ったり、日本の大学では味わえない体験がたくさんできます。

次にミールプランについて。留学中の食事については基本的にこのプランに加入して入れば、問題ありません。回数も月10回から19回まで選ぶことができますし、そもそもこのプランを使わずに自炊を選択することもできます（ただしその場合は、キッチン付きの寮を選ぶ必要がありますので注意してください。キッチン付きの寮を選んで、ミールプランを選択することは可能です）

・留学期間

勉強

アメリカの大学は日本の大学とはシステムが大きく異なり、かなりの自主性が求められます。日本の大学では、10から15の授業を受けながらテスト前に必死に勉強するというスタイルが一般的ですが、アメリカの大学、特にMITではそうはいきません。基本的に授業は4つから5つしかとらないのですが、それぞれの授業ではかなりの量のワークが要求されます。具体的には、1授業で12unitsが取得でき、その心は1週間に授業含め12時間の勉強量が必要ですよ、ということなのです。つまり48unitsを取ると1週間に48時間勉強してくださいということなので、平日はほとんど遊ぶ暇がありません。（僕はギリギリの36単位しか取っていませんでしたので、多少余裕がありました）なので実際に授業を受けている時間は1日平均3時間くらいなのですが、Psetsと呼ばれる課題や個々の授業ごとに出されるエッセイやプレゼン等の準備が勉強時間の大半を占めます。これだけ聞くととても大変なことに聞こえますし、実際大変ではあるのですが、1つの授業を受けることでその分野の知識が格段に深まりますし、学生同士のコミュニケーションもとても活発なので意外と楽しく（実際に授業内で発言・質問等をする学生が本当に多く、日本人留学生はみんなびっくりすると思います）、非常に充実した日々を送ることができました。

具体的に僕が履修した授業は以下の通りです。

15.0111 Economic Analysis: Business Decisions(9units)

22.014 Ethics for Engineers(6units)

22.081 Intro to Sustainable Energy(12units)

22.URG Undergraduate Research(9units)

この一番下の Undergraduate Research は通称 UROP と呼ばれるプログラムで、日本のように学部での研究室配属がない代わりに学部生のうちから（一年生からでも参加可）本格的に研究に参加できるというプログラムです。世界的に有名な教授による世界の最先端の研究に触れることができる大変貴重な機会ですので、MIT に留学される皆さんはぜひ参加してみてください。

また日本とは違う点として、オフィスアワーの存在が挙げられます。これは教授が週に一回学生の質問を受けるためだけに用意している時間で、このタイミングで非常に多くの生徒が先生に質問や進路相談をしにいきます。この時間に日々行くようにすることで、教授の評価も上がって後々成績等で役に立ったりもするのでこちらも積極的に活用してください。

・ イベント/交友関係

留学生活において、勉強と同じくらい重要なのが友達作りです。もちろん英語の練習にもなりますし、他の文化の人と遊ぶことで今まで自分がどれだけドメスティックな環境にいたか思い知ります。人種、ジェンダーなど今世界で問題になっているようなことも身を持って学べる機会なので、勉強以外の時間はなるべく外に出て友達を作るようにするのがオススメです。

MIT には固いものから激しいものまで数多くのイベントがあり、飽きることが全くありません。秋学期最初の週には、サークル勧誘（テント列のようなものです）、フラタニティラッシュ、寮の歓迎パーティなど楽しいイベントが目白押しでふらふらになるまで遊びました。授業が始まって平日は忙しいものの、みんな週末には（金曜の夜からは）完全にスイッチを切って遊びほうけます。特に金曜夜にはどこかで何かしらパーティが開催されるので、主催している友達をなるべく多く作っておくことが学生生活を楽しむ鍵です。

またサークルやスポーツの学内リーグも盛んで、何かしら興味があるものがあればとりあえず入っておくのがオススメです。実際に僕は寮のみんなとチームを作って学内のサッカーリーグにエントリーしたり、MIT の院生が主となっているサッカーチームでたまに練習していたりしました。また MIT には日本人コミュニティもあるので、そこで日本人と会ってほっこりするののもまた一興です。

・ ボストンについて

一言で言うと最高に住みやすいです。発展しているのですが、都会過ぎずといった感じで歴史的にも深い場所です。たくさん観光地があり、僕自身も全て回りきることができなかつたほどです。MIT から川を渡るとすぐにおしゃれな店が立ち並ぶ通りに出ますので、ショッピングや食事も楽しめます。驚いたのが、意外と日本食レストランが多く

レベルも非常に高いので日本食が恋しくなった時はそこに駆け込むことにしていました。

ただ問題は気候でして、秋のうちは涼しいくらいでちょうどいいのですが12月ほどになると極寒とも言える寒さでマイナス十度をきる日も出てきます。なので服はバリエーションを持ってしっかりと準備していくことを強くお勧めします。

・留学費用について

ビザ申請	¥18,400
SEVIS	¥20,274
ワクチン関連	¥58,245
OSSMA	¥18,360
付帯海学	¥37,050
MIT 保険	¥144,700
寮費、ミールプラン	¥799,200
往復渡航費	¥219,900
計	¥1,316,129